

授業科目名	組織学	担当教員	教授 藤谷 昌司 他
開講年次・学期	1年後期	必修/選択	必修
開講形態	実習	時間数/単位数	64時間
授業概要			
<p>組織学では、組織・細胞レベルで人体の構造を理解する「組織学」を主軸としながら、生理学や生化学などで学ぶ機能に関する知識とも関連づけて、有機的かつ総合的に理解するよう学ぶ。はじめに医学の最も基礎となる「解剖学、組織学とは」という話から始まり、細胞の基本的構造、組織の構成要素、染色法などの基礎項目についての講義がある。続いて身体を構成する四大組織(以上、組織学総論)、および各器官系の組織(組織学各論)について基本的に実習形式で学ぶ。各回概説を受けた後、実習として組織切片標本のバーチャルスライドをタブレットにて観察し、スケッチすることを通して各器官の組織構造に対する理解を深める。また、どうして、組織学を学ぶのか、病理学教員による講義も含まれ、モチベーションが維持されるように工夫されている。並行して行われる基礎的な生理学を学ぶ分子細胞生物学2とも関連付けて学ぶことが必要である。組織学を含む解剖学の内容は豊富であり、2年次に行われる解剖学実習、正常な機能について学ぶ生理学、生化学のみならず、病理学などの臨床基礎医学を学ぶ上で必須の基礎となるため、日々の着実な学習が望まれる。</p> <p>組織学講義は、オンデマンドでMoodleを介して提供する予定である。組織学実習の方法については、3密を避けるためオンライン主体の実習方法である。ただ進捗状況のチェック、フィードバックを行うため、1回あたり、学年の約1/4のみの分散入構を行う。感染防止措置、集合時間、集合場所等、別途詳細に説明する。</p>			
GIO(一般目標)			
<p>人体の構造を機能と関連づけて深く理解するために、ミクロ的視点(組織・細胞レベル)から構築様態を認識するとともに、組織標本の光学顕微鏡(光顕)的および電子顕微鏡(電顕)的観察能力を養う。</p>			
SBO(行動目標)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の基本的構造を光顕的および電顕的に説明する。 2. 各組織の構成要素を顕微鏡的に理解し、組織全体の構成を説明する。 3. どのような組織が如何に組み合わさって各器官や臓器が構成されているのかを説明する。 4. 組織・器官・器官系の組織学的構成を機能と関連して説明する。 5. 染色法について理解し、各組織標本の染色について判別、説明する。 6. 染色法、組織学的手法、免疫組織学的手法など、標本作製の手技について説明する。 7. 組織標本を観察して所見をスケッチし、構成要素を同定するとともに、その組織学的特徴を記述する。 			
成績評価の方法			
<p>スケッチの内容(スケッチブックを提出)により日々の到達度を判定し、筆記試験(中間試験、期末試験)とあわせて評価する。</p>			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
<p>指定図書 藤田尚男, 藤田恒夫(原著): 標準組織学総論・各論(医学書院)</p> <p>参考書 肉眼解剖学・生理学について: 系統看護学講座、解剖生理学、人体の構造と機能①(医学書院) 人体の正常構造と機能(縮刷版)(日本医事新報社)</p> <p>組織学の入門書: 牛木辰男: 入門組織学(南江堂)</p> <p>アトラス: 駒崎伸二著: バーチャルスライド組織学(羊土社) 岩永敏彦他: カラーアトラス組織・細胞学(医歯薬出版)</p> <p>Bloom & Fawcett: A Textbook of Histology (Saunders)</p> <p>Di Fiore et al.: New Atlas of Histology(Lea & Febiger)</p>			
オフィスアワー			
適宜			
準備学修に必要な学修の時間			
各講義の中で指示します。			